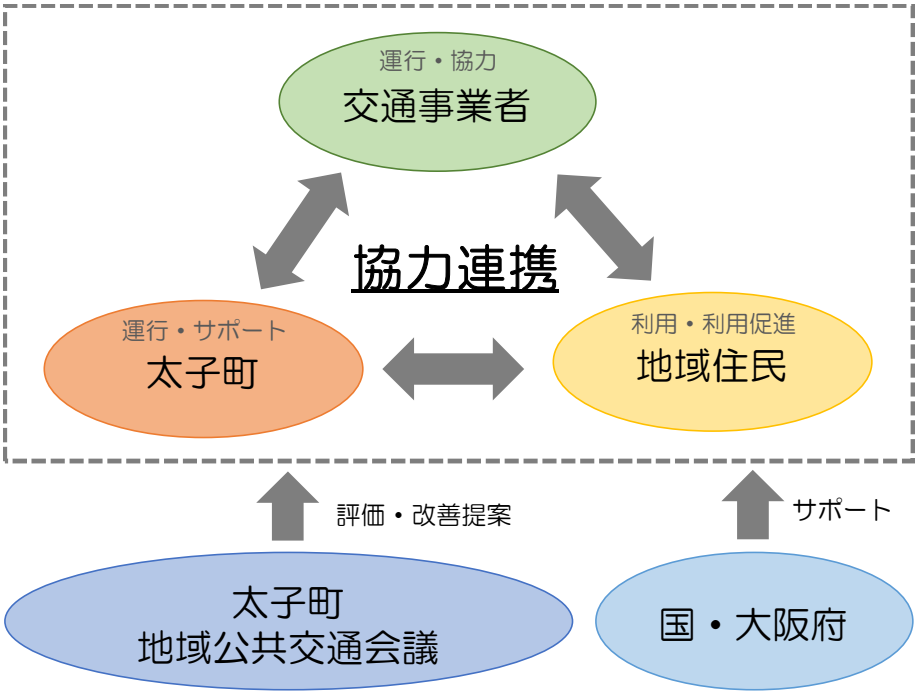
9. 計画の達成状況の評価

9-1. 評価体系

（1）体系

地域公共交通会議を継続し、地域公共交通の利用状況を定期的かつ適正に評価し、地域の公共交通の維持に努めます。



▲　太子町地域公共交通会議の体系

（2）評価の考え方

本計画で設定した目標を達成するため、５年間の計画を通じた評価に加え、施策の取組状況や社会情勢の変化を踏まえ、１年単位での指標の把握や評価を行い、見直しも実施します。

これまで行政計画の進捗管理に活用されていた PDCA サイクルに加え、常に変化・改善が求められる公共交通の分野であることから、OODA ループを用いた評価を行います。

PDCA では、当初立てた Plan がスタートとなり、進行中の管理・監視が最重要視されるため、プロセスが重要視されます。このような特徴を持つ PDCA に比べて、OODA は観察やそれにともなう状況判断に重きを置いており、多様化する市民ニーズや変化の速い社会情勢に対応する柔軟な判断や迅速な実行が最優先となります。

目標を達成していない場合は、さらなる利用促進、運行形態の見直し等、達成するよう関係者一同において努力をしていきます。

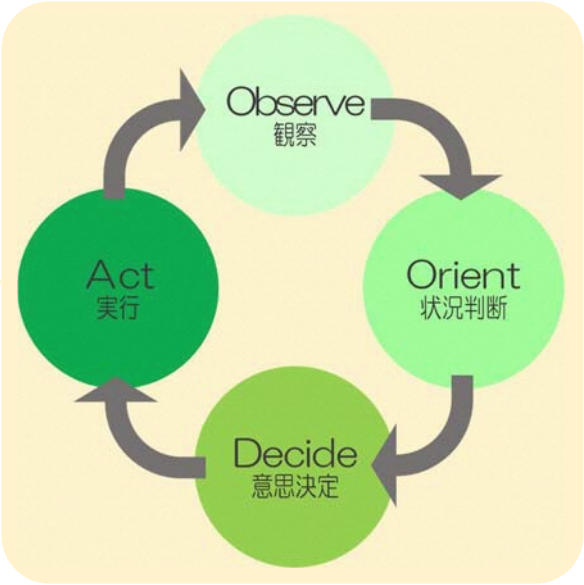
地域公共交通施策

長期的な見直し

PDCA
プロセスを重視する

短期的な見直し

OODA
状況判断を重視する



PDCA とは

・Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の頭文字をとったものです。
・目標を達成するための要素を 4 つの段階に分けて成功に導く方法を示したもので、これらを繰り返し実行します。
・Plan：目標をたて、それを実行するための施策を計画します。
・Do：上記の計画に沿って、施策を実行していきます。
・Check：。施策の実行により目標が達成できているかを評価し、良かった、点と悪かった点を分析します。
・Action：評価結果に基づき、良かった点は継続し、悪かった点は施策を見直します。

OODA とは

・Observe（観察）、Orient（状況判断、方向づけ）、Decide（意思決定）、Act（行動）の頭文字をとったもので、分かりやすくいうと「みる」「わかる」「きめる」「うごく」となります。
・目標を達成するための要素を 4 つの段階に分けて成功に導く方法を示したもので、これらを繰り返し実行します。
・Observe：相手（対象や状況）をよく観察します。客観的なデータを収集します。
・Orient：上記の観察結果に基づき、状況を判断し、方向付けを行います。
・Decide：今後の具体的な方針や行動プランを策定します。
・Act：実際の行動となります。

9-2.評価基準

毎年、各種指標の把握・分析を行い、計画最終年の目標に向けた適切な各施策の実施に取り組みます。

① 最終計画年の５年後に目標ごとの指標を評価《PDCA》

② 毎年、施策推進のための指標を評価（利用や人に視点をおいた指標を重視）《OODA》

なお、評価基準については、実証運行の結果を踏まえ、見直しを行う。

▼ 計画全体の評価指標

指標	数値目標	計測方法
公共交通の利用者数 《OODA》	【現況】 太子線、太子葉室循環線の乗車人数計 平日：700 人/日　休日：520 人/日 （H30 年度調査結果） 【目標】 太子線、太子葉室循環線、新規検討路線（基幹交通・支線交通）の乗車人数合計 平日：1,000 人/日　休日：700 人/日	利用者数調査
収支割合 《OODA》	【目標】 新規検討路線の収支率：20%	支出・収入情報
他部局の評価 《OODA》	【目標】 他部局へのヒアリング まちづくりへの貢献度：8 割以上	ヒアリング調査
公共交通空白不便地域の有無 《PDCA》	【現況】 聖和台・磯長台地域、畑・山田地域の一部 【目標】 解消	バスルート図

▼　各目標・施策に関する評価指標

目標	施策	指標	数値目標	計測方法
目標1 誰もが利用できる地域公共交通網の形成	基幹交通の強化	公共交通空白・不便地域への乗り入れ本数 《PDCA》	【現況】 聖和台・磯長台地域 平日：0便　休日：0便 【目標】 聖和台・磯長台地域 平日：1本/1時間　休日：1本/1時間	時刻表
	支線交通の確保	公共交通空白・不便地域への乗り入れ本数 《PDCA》	【現況】 畑・山田地域 平日：0便　休日：0便 【目標】 畑・山田地域 平日：1本/1時間　休日：1本/1時間	時刻表
	乗換え拠点の強化	快適度 《PDCA》	【目標】 役場周辺のバス待ち空間の快適度 ：6割以上	アンケート
		拠点施設への乗り入れ本数 《PDCA》	【現況】 役場周辺 平日：56便　休日：47便 【目標】 役場周辺 平日：80便　休日：65便	時刻表
		基幹交通と支線交通の接続本数 《PDCA》	【目標】 基幹交通と支線交通の接続本数 ：1本/1時間	時刻表
	利用しやすい交通の確保	理解度 《PDCA》	【目標】 理解度：6割以上	アンケート
		定時性の満足度 《PDCA》	【目標】 満足度：6割以上	アンケート
	交通弱者に対する移動支援	満足度 《PDCA》	【目標】 高齢者等の満足度：6割以上	アンケート

目標	施策	指標	数値目標	計測方法
目標２ みんなで支える地域公共交通の活性化	継続に向けた体制づくり	継続に向けた体制づくりの実施回数 《PDCA》	【目標】 公共交通に関する意見交換会、検討会、会議等の開催回数 ：3 回/年	実績をカウント
	モビリティマネンジメントの推進	情報発信回数 《PDCA》	【目標】 時刻表冊子の配布、ＨＰ情報発信等 ：3 回/年	実績をカウント
		情報発信の理解度 《PDCA》	【目標】 情報発信の理解度：6 割以上	アンケート
		公共交通を利用するきっかけづくりの実施回数 《PDCA》	【目標】 イベントでの利用促進等の開催回数 ：1 回/年	実績をカウント
		教育機関と連携したイベントの実施回数 《PDCA》	【目標】 バスの乗り方教室等の開催回数 ：1 回/年	実績をカウント
目標３ 地域公共交通を活用した多様な人の交流	観光施設等との連携	観光施設の利用者数 《OODA》	【目標】 観光施設（年間竹内街道歴史資料館）公共交通での来訪者割合：10%	ヒアリング調査
	商業施設へのアクセス強化	商業施設周辺バス停での降者数 《OODA》	【現況】 商業施設の周辺バス停での降車数 平日：34 人/日　休日：13 人/日 （太子四ツ辻での降車数） 【目標】 商業施設の周辺バス停での降車数 平日：50 人/日　休日：20 人/日 （太子四ツ辻と商業施設周辺バス停での降車数）	利用者数調査
	高齢者等の外出支援促進	高齢者の外出 《PDCA》	【現況】 65 歳以上：60.3% （平成 22 年近畿圏パーソントリップ調査） 【目標】 65 歳以上：60.3%《現状維持》	アンケート

参考　SDGs の取組み

【SDGs とは】

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2015 年 9 月の国連サミットにおいて、全会一致で採択された国際目標です。

「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、２０３０年を年限とする１７の国際目標で、その下に、１６９のターゲット、２３２の指標が定められています。

発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むべき課題であること、また、自治体を含めた様々なステークホルダーが取り組むべき目標とされています。

目標「11.住み続けられるまちづくりを」

持続可能な都市は、持続可能な開発のための 2030 アジェンダを構成する 17 のグローバル目標の一つです。複数の目標を同時に達成するためには、包括的なアプローチが必要不可欠です。

そのために本計画では、地域公共交通の視点から持続可能なまちづくりにアプローチを行っています。計画策定で終わりではなく、ＰＤＣＡやＯＯＤＡに則り、継続的に見直しを行い、持続可能なまちづくりに貢献します。